

今後の整備計画は？

西条市東部公園

(新政クラブ)

問

東部公園は、昭和57年に県が策定した緑のマスタープランに基づき、自然環境を生かした総合公園として位置付けられ整備されてきた。西条市都市計画マスタープランなどにもレクリエーションの拠点として位置付けられ、整備推進すると示されているが、今後の整備計画について問う。

答

東部公園は、平成5年に総面積12・3ヘクタールの総合公園として基本計画を策定し、現在、多目的グラウンド約1・4ヘクタールを供用開始している。

基本計画の策定時点では、市街地が拡大し、人口も増加することを前提に計画されたが、近年の人口減少や高齢化社会の進行など、本市を取り巻く社会情勢は大きく変化し、更には平成16年の合併後は西条運動公園など4つの広域的な公園を有している。

このような状況を踏まえ、今



西条市東部公園

また、子宮頸がん予防ワクチン接種への対応は、どのようになっているのか。

答

本市の子宮頸がん検診の受診率は、平成22年度18・4パーセント、平成23年度19・3パーセント、平成24年度19・2パーセント、乳がん検診の受診率は、平成22年度35・1パーセント、平成23年度34・9パーセント、平成24年度33・6パーセントとなっている。

後の整備に当たっては、東部公園の規模や機能について計画の見直しも含めて、どのような公園にすべきか、市民の意見も聞きながら研究していきたい。

早期発見・早期予防！

女性特有のがん対策

(新政クラブ)

問

女性特有の子宮頸がんや乳がんは、早期に発見することにより、経過観察や負担の少ない治療につながるものがあるが、本市における検診の状況及び受診率向上のための取組について問う。

徹底を行っている。

また、現段階では、接種について積極的勧奨は控えるものの、接種は継続されることから、接種対象者が不利益を被ることがないように、国の動きを注視しながら、県や関係団体とも連携し、対応していきたい。

学・官が連携した地域づくりの推進を！

(新政クラブ)

問

本市では、平成20年度に西条市フィールド大学構想を策定し、大学などの高等教育機関と協定を締結することにより、学・官が連携した地域づくりに努めてきたが、協定締結後の実績及び今後の取組について問う。

また、愛媛大学と協定を締結したが、今後、どのような連携をしていくのか。

答

本市では、これまでに東海大学をはじめ、7つの機関と連携協定を締結している。この協定を軸に、本市の豊かな資源を活用した学級活動の推進や地下水調査解析事業など、大学などの研究者と連携した施策

の展開を図ってきた。平成25年度も、フェニックス芸術フェスティバルへの出展や第4回安全・安心でおいしい地下水サミットなど、大学などの研究機関とのつながりを活用した取組を行っている。

今後、新たな協定先については、現状の協定研究機関との連携を続けていく中で検討していきたい。

愛媛大学との連携については、協定締結により、これまでの連携が強化されるのみならず、今日的な教育分野の課題に対応した連携を図っていきたいと考えている。また、防災などあらゆる分野についての新たな取組や教育研究活動の場として、本市を積極的に活用する提案がなされるものと期待している。



第4回安全・安心でおいしい地下水サミット